



神奈川県環境学習リーダー会 会 報

No. 43

2005 年
2 月 3 月

役員会報告 (事務局長 山田あや子)

2 月役員会 (2 月 14 日)

1. 今年度の収支決算報告書について、柳川会計から出された「収支計算書」案を採択した。
内容としては、収支計算書 一般会計・特別会計、財産目録、貸借対照表である。尚、木本監事より受託事業の参加者への配分ルールについて、明確にしておくよう発言があった。
2. 会計監査は、4 月 4 日午前中行うこととした。
3. 「細則 規約 19 条、協力金など」の施行要綱案については、安丸氏案を「実施要綱」とすることと決定した。
4. 神奈川環境情報コーディネーターの渋谷氏から依頼のあった「鎌倉市越谷学習センター生涯学習」の講座について、経過説明があった。スケジュールとしては、2 月中に講師決定、3 月中に講座内容決定となる。尚、講師は、鎌倉地域在住の人材を当てる。事務局安丸氏、大森氏が担当。
5. 現在 24 名いる会費未納会員の取り扱いについて

は、往復はがきで会費納入依頼と共に『次年度会員登録の意志』を確認する。事務局長が担当。

3 月役員会 (3 月 14 日)

1. 5 月 14 日 (土) 開催予定の「平成 17 年度総会」に向け、第 1 号から第 5 号までの各議案の検討を行った。
2. 柳川氏より「グリーン部会」創設の構想が書面でも出された。目的、活動計画、部会長などの提出を求め、会則に則り了承した。
3. 部会以外の会員活動の支援策として、グループ活動に対する助成金の提案があった。役員会として現段階では、支援対象の範囲の設定など(例えば、会員以外が加入している場合の扱い、会員何人以上とするかなど)審査の基準等のことも含め今後の検討課題とした。
4. アジェンダセンターが「地球温暖化防止推進委員」に行っている研修会、集合研修の運営依頼があった。当会が受託するか否かについて、現段階では保留とした。

京都議定書の発効に寄せて

K・リーダー会代表 近藤 作司

平成 17 年 2 月 16 日午後 2 時 (米国東部時間 16 日午前零時) に発効しました。この前後の新聞・TV 等メディアの報道はかなり力が入ったものでした。我が K・リーダー会会報 41 号に木本氏の「大気の変貌と地球温暖化 京都議定書の先にあるもの」という講演会紹介記事や、会報 42 号の石丸氏による「異常気象と温暖化」という環境省一般公開シンポジウムの参加記事が掲載されています。

神奈川県では京都議定書の発効を前にして、1 月 29 日 (土) 「地球温暖化防止ヘキックオフ! 今、私たちがしなければならないこと」という講演及びパネルディスカッションが開催されました。また、2 月 11 日 (金) には「アジェンダ 21 かながわ実践者の集い」が開かれ、講演と県内地球温暖化防止活動推進員による活動事例発表がありました。

前者の講演はかながわ地球環境保全推進会議会長 (慶応義塾大学教授) 浜中裕徳氏『京都議定書の発効と地球温暖化対策』、後者の講演は独立行政法人国

立環境研究所理事 西岡秀三氏『温暖化: 今こそ行動の時 ~ It's NOW or NEVER ~』でした。

いずれも断定は出来ないものの、気候変動やそれに伴う諸現象は地球温暖化によるものと言わざるを得ず、その起因は温室効果ガス、中でも二酸化炭素 CO₂ によるものであろうとのこと、充分説得力のある講演でした。

京都議定書が発効した以上、我が国は温室効果ガスの排出量を 1990 年対比で 2008 年から 2012 年までに 6% 削減しなければならない。実際にはこの間上昇した排出量を加えると約 14% の削減目標を達成しなければならないとされています。神奈川県では平成 15 年に策定した「新アジェンダ 21 かながわ」で、二酸化炭素の排出量の削減目標を「2010 年の排出量を 1990 年対比で 6% 削減します」と設定しました。しかし 2002 年の CO₂ 排出量推計値を見ますと、既に対 90 年増減率が 9.1% になっています。県内の CO₂ の部門別排出量 (2002 年推計値)

は、合計 7,019 万 t CO₂ であり国全体の 5.6% を占めています。この中で家庭部門は 1,049 万 t、全排出量の 14.9% を占め、対 90 年増減率ではなんと 28.7% にもなっています。1 年前との比較を見ますと、10.8% 増、電気使用量の増加が 14.7% もあります。(出典：かながわの環境メール配信サービス：<http://eco.pref.kanagawa.jp/press/0411/22052/>)

K・リーダー会としては、会員個人、部会、活動団体の総力を挙げて二酸化炭素排出削減に協力したいと思います。個人としては家庭部門や運輸部門の

排出量削減行動をしっかりと実践する。環境学習を通して児童・生徒、地域の人たちに普及啓発する。などなど実践出来ることは大いに手がけましょう。教材・資料等に関しては、全国地球温暖化防止活動推進センター、省エネルギーセンター、環境科学センター、かながわアジェンダ推進センター/神奈川県地球温暖化防止活動推進センターなどの協力を得ることが出来ます。

～地球の未来のために～ 持続可能な社会の実現を目指してさまざまな環境活動を行いましょ。

第11回市民環境活動報告会 開催される

第11回市民環境活動報告会実行委員長 黒澤 宏

去る 2 月 19 日、第 11 回市民環境活動報告会が、神奈川県環境科学センターと当リーダー会の共催により、かながわ県民センター 2 階ホールにて行われました。あいにくの雨にも拘らず、早朝より大勢の方々に熱心にご参加頂きました。従来から地球温暖化防止活動推進員、かながわ環境カウンセラー協議会及び当 K-リーダー会の皆さんの日ごろの活動を報告頂いていたのに加え、今回は一般市民の方にも参加いただいたこと及び報告形式として新たにポスターセッションを加え、より多くの方の参加を得ることが出来ました。

開会に当たり、神奈川県環境科学センター所長武繁春氏より「我々の後の世代に対し、悔いの残らないように行動するには、Think Globally, Act Locally! が大切。地域での行動、即ち、豊富にある身近なもの・地域にあるもの、資源、土地、人材(教育)技術を工夫して活用していくことが温暖化防止等に繋がっていく」とのお話を戴き、また基調講演として、今回は NPO 法人緑のダム北相模事務局長の石村黄仁氏をお招きし「… 都会の普通の人々による … 国際 FSC 認証の森づくり」と題してお話し戴きました。

以下に基調講演と 6 件の演壇発表及び 6 件のポスターセッションを紹介いたします。
(以下、敬称略)

基調講演及び 12 件の報告発表

「嶮山小学校の環境学習 - 1 年間の環境家計簿活動の報告」

セーブあおば 原田 豊
温暖化防止活動推進員のメンバーで構成する「セーブあおば」の活動から、青葉区嶮山小学校で 5 時限の環境学習の中環境家計簿を 1 年間つけるよう依頼して行った結果を分析し、生徒が報告した内容の

報告。

NPO・行政・教育委員会が協働して開発した「やまとみどりの学校プログラム」

NPO 法人かながわ環境教育研究会 八木下 一壬
大和市に於いて学校における環境教育を推進し、環境保全全般に関する自発的な実践活動が行われるよう NPO 法人、教育委員会、学校、環境部が協働して「学校の環境活動推進プログラム」作りを進め、纏め上げた「やまとみどりの学校プログラム」の報告。

「地球温暖化問題と私たちの暮らし - 街角と総合学習における実践活動」

神奈川県地球温暖化防止活動推進員

神奈川県自然公園指導員連絡会代表 渡邊 吉一
温暖化防止活動推進員の第一期生として平成 11 年 6 月に委嘱を受けて以来、個人、又湘南グループの一員或いは、全国の交流会への参加。また地域での環境審議委員・生涯学習の講師・小学校での環境学習等々幅広い活動の報告。

「竹と人との共生を取り戻すために - ボランティア活動の持続的活性化の戦略」

日本の竹ファンクラブ 平石 真司

竹という素晴らしい素材が活用されなくなってきた結果放置された竹林は里山を侵食、又竹文化の消失という重大な問題に発展している。これらの問題解決の為に 5 つの事業を柱とする市民参加による多様な保全活用システムの創出と、手入れの出来なくなった竹林や荒廃竹林の保全と活用の推進活動の報告。

基調講演「… 都会の普通の人々による … 国際 FSC 認証の森づくり」

NPO 法人緑のダム北相模事務局長、理事
東京農業大学森林製作研究室 石村 黄仁
石村講師は、空気汚染防止対策の技術開発で、空

気清浄装置とガスの吸着分解剤を事業で取り扱っていて活性炭の関係から木との関わりが出来、ついには、「森林は世界最大の空気清浄装置だ。それが急速に破壊されている・・・」ということに気が付いたことが、活動の始まりだという。

その後は、「森林の減少」及び「CO₂ ガスによる地球温暖化問題」を何とかしなければという想いと、色々な人との出会いと交流が、現在までの大きな流れの礎になっていること。そして、活動の中で色々な決断をしなければならぬ場面で、しっかりとした理念を持っていることでその理念に立ち返って考えられる。そのような理念を持つことの重要なこと。

モットーとして「急がず、無理せず、楽しく、休まず、ポチポチと・・・」の大切さ、地域との交流、地域をつなぐ、環境と経済をつなぐ仕組みが、息の長い、幅の広い活動に発展させていく為に必要であるという。そしていま、市民団体としては初めての国際 FSC 認証取得に挑戦をしている。

沢山のエピソードを交えながらの素晴らしい内容の一時間であった。



基調講演する石村 黄仁氏

ポスターセッション「三浦半島の大気と川の調査」

横須賀「水と環境」研究会
三浦半島の河川水環境調査結果と三浦半島大気汚染(NO₂)をマップにより発表。

ポスターセッション「かながわ環境カウンセラー協議会の活動」

かながわ環境カウンセラー協議会
「エコアクション21(EA21)の認証を取得しよう！」

「化学物質とうまくつき合うために」

ポスターセッション「平成16年12月度大気

(NO₂)測定報告」

K・リーダー会 大気環境部会
調査活動の10年のあゆみと、行政と県民による
モニタリングネットワーク

平成16年12月度NO₂調査結果

ポスターセッション「酒匂川水系外来種生息状況」

K・リーダー会 水環境部会
「フロリダマミズヨコエビ」他の生息調査の報告
と「フロリダマミズヨコエビ」実物展示

ポスターセッション「K・リーダー会エネルギー部会の活動」

K・リーダー会 エネルギー部会
エネルギー部会のエネルギーを通しての環境教育・環境学習の取組についての発表

ポスターセッション「今、なぜケナフ？」

K・リーダー会 ケナフ部会
ケナフを教材とした環境学習のこれまでの歴史と
幅広い活動を紹介

「生ごみ堆肥の地域循環を目指して - 簡単・臭わない！生ごみの堆肥化処理方法 - 」

えびな環境市民会議 / 地球環境部会

赤崎 美喜子・飯田 寿枝・高橋 歌子・
松宮 玲子・松村 芳子

「燃えるごみ減量化」に向けて家庭生ごみの堆肥化実験、野菜栽培実験と進めてきた成果に「ごみ減量化・資源化地域循環推進事業」を海老名市から委託され、663世帯を対象に堆肥化を推進、この堆肥を使って収穫された野菜は、JAで販売するという地域循環の取組の報告。

「環境と共生するわたしのまち・ちがさき - ちがさきエコワークの活動」

かながわ環境カウンセラー協議会

茅ヶ崎環境市民会議「ちがさきエコワーク」

小山 稔

茅ヶ崎環境市民会議「ちがさきエコワーク」は2000年10月に設立された非営利の市民活動団体で、茅ヶ崎市では多くの環境市民団体が自主的に環境保全活動を行っているが、殆どの環境団体はちがさきエコワークの団体会員でもある。同会の事業としては、「環境フェア」、「環境市民講座」その他プロジェクトの推進を行っており、その活動の紹介発表。

なお、当日参加者に配られた講演要旨集は、まだ若干残りがありますので、ご希望の方は、黒澤又は事務局宛にご連絡頂ければお分け致します。

部会の変更について

K・リーダー会代表 近藤 作司

3月14日定例役員会及び4月4日特別役員会において、部会の創設、変更が議決されました。その結果、K・リーダー会の部・部会は2部・7部会体制になりました。

【グリーン部会】の創設

3月14日開催の定例役員会において、「グリーン部会」を創設したい旨の提案が付議され、創設が決定しました（提案者：柳川会計担当役員）。

この部会の目的、活動方針、活動計画は後記の「部会活動」をご覧ください。

部会の体制：

部会長・部会担当役員（候補）杉山陽絵
部会員：現在9名の賛同者

【廃棄物・G O 3部会】の発足

4月4日開催の特別役員会において、「G O 3の会」が新部会としてK・リーダー会に加入する旨の提案が付議され、「廃棄物・G O 3部会」の名前での加入が決定しました（提案者：安丸事務局員）。

この部会の活動方針、事業計画は後記の「部会活動」をご覧ください。

部会の体制：

部会長 原園信夫、部会担当役員（候補）狩野光子
部会員：現在4名

【廃棄物・リサイクル部会】の廃部

4月4日の特別役員会において黒澤部会担当役員から休部または廃部の提案がありました。提案理由は、昨年8月より部会長兼部会担当役員の市川氏が体調不良により辞退され、その後後任者も決まらず、部会者も漸減し、組織としての活動が続けられないと判断したためとの事です。

同日「廃棄物・G O 3部会」の発足があり、同部会への移行が考えられることにより廃部とすることに決定しました。

【自然環境部会】の継続

4月4日の特別役員会において岩田部会担当役員より、新加入部会員との懇談の企画やその後の経緯等説明があり現状では休部も止むなしとの提案がありましたが、部会員との接触も継続中であり、来期の体制も考慮されていることから休部の取扱いはいしに決定しました。

平成 16 年度 第二回意見交換会

事務局 安丸 元一

第二回意見交換会への参加者は少人数だったが、有意義な討議がなされ、ここに報告します。

開催日時：平成 17 年 3 月 6 日（日）
13：30～15：00

場所：ひらつか市民活動センター

参加者：10名

- 議題： 1. 会員の環境活動ネットワークを推進するにはどうすべきか
2. どうすればK・リーダー会の活動に多くの会員参加が望めるか
3. その他

近藤代表が挨拶の中で2点を指摘した。

- (1) 2回の意見交換会への参加状況を見る限り、次年度事業計画では年2回が妥当か検討課題だ
- (2) 一年間の事業計画は順調に行われている。しかし大幅な新規事業予算を立てたが、フォローアップ研修などの企画がなかった。当会が開催するイベントへの動員数の問題や退会

者が増えている状況について今後考える必要がある。

意見交換会の開催回数は変更せず多くの会員が参加できるよう時期、方法について議論することで集約した。

今回の議題、及び代表指摘事項(2)については地域活動サポート部内で大いに議論した経緯もあり香川部長から経過報告があった。

1. 講師を招いての講演会や見学会などを予定していたが、サポート部の数回の会合を経て、ハイレベルのものを求めず、地域で活動している人が中心となるなど、地域に光を当てることを重視する方向に変わり、その結果3月20日開催予定の「第1回地域交流会」となった。これは地域会員の掘り起こしにも大いに役立つと思っている。
2. 地域の会員活動を知るために、地域のイベントに積極的に参加したい。今回茅ヶ崎市の「ちがさき環境フェア-実行委員会」、水環境部会

が KERC に協力しての「丹沢の総合調査」に参加し地域での活動状況、問題点などを把握する良い機会となった。

討議の結果、3月20日の第一回「交流会」はその試金石であり、その成り行きを見て次回につなげよう。今回は試行錯誤の上決ったので期末になったが、結果がよければ一年を通じて考えよう。あせらず、コツコツと小さくても楽しみながら進めよう。

また地域の環境活動イベントに地域の会員が主役になり参加することで、多くの会員が活動する場となり、当会が地域の問題点を把握でき自ずとネットワーク作りも進展するであろう。更に当会の知名度も高まるであろう。との締めくくりとなる。

最後に第一回「地域交流会」が成功裏に終わる事を祈念して閉会とする。

参考までに県下を網羅した地域別会員数を示す。

神奈川県環境学習リーダー会・地域別会員数
(平成17年3月5日現在)

市・町名	会員数	市・町名	会員数	市・町名	会員数
川崎市	6	座間市	5	寒川町	1
横浜市	61	綾瀬市	5	山北町	1
平塚市	14	秦野市	5	城山町	1
茅ヶ崎市	13	藤沢市	4	県外	3
鎌倉市	11	逗子市	4		
厚木市	10	伊勢原市	3	計	183
小田原市	8	大和市	1	賛助会員	6
横須賀市	7	中井町	2	賛助団体	1
海老名市	7	二宮町	2	合計	190
相模原市	7	大磯町	2		

第4回親子で楽しむ環境展 実行委員会報告

実行委員長 北村 博子

平成17年6月4日(日)10:00~16:30
かながわ県民センター 1階展示場 開催

京都議定書発効の年にあたり、アジェンダ推進センター環境月間普及啓発事業の一つとして実施し、実施されるであろう【親子で楽しむ環境展】は、『地球温暖化対策』として合意されたCOP3京都議定書が目指す、二酸化炭素削減目標を、私たちK・リーダー会も、具体的な数値目標として削減することを、この環境展で示す必要があるでしょう。

K・リーダー会各支部、或いは、K・リーダーが中心になって活動する多くの環境保全活動団体では、既に、主体的に、CO₂を削減する具体的取組をそれぞれの活動の中で実践していることと思われます。しかし、その具体的な方法は、CO₂削減の実効性ある効果を結果としてもたらすことが出来るものでな

くてはならないでしょう。

「親子で楽しむ環境展」は、普及啓発のみならず、京都議定書の目標・基準年から6%削減達成のために、温室効果ガス削減に実効性のある内容にすることが求められることとなります。

参加グループは勿論、K・リーダー会として、内容を充実させ、この「親子で楽しむ環境展」が「地球温暖化対策」を中心に提示し、県民に親しまれる形で持続可能な社会へ向けて「新アジェンダ21かながわ」推進の足がかりとなることを願っています。

上記をご賢察の上、会員の皆様のご理解ご協力を頂きたいをお願いします。又、当日会場運営・展示会への来場などにもご協力をお願いいたします。

(参加グループなど環境展概要は次頁の表参照)

グループ名	展示テーマ	キャッチフレーズ	展示項目	責任者 参加者
			体験項目	
1) リーダー会	地域の環境学習・ 保全活動を!	地球の未来のために 親子でエコライフ	リーダー会活動 「地球温暖化問題とリーダー会活動」	安丸 新役員
2) エネルギー部会 3) エネルギー会	未来は、私たちの対応に 掛かっている	暮らしとエネルギーの 過去・現在・未来	昔の生活、未来予測等 エコカルタ取り、双六、電気実験・ 測定、自然エネルギー実験・体験等	吉田、安藤 福田、藤木 下条、小田
4) ケナフ部会	ケナフを育てて環境につ いて考えよう	今、なぜケナフ	1年間の活動状況、ケナフ製品展示 ケナフ紙漉き	荒谷、小川 鈴木、早野
5) (旧) 廃棄物・ リサイクル部会	ライフスタイルを見直そう	シンプル＆クリーン で心豊かな暮らしの 実現を	3R パネル展示、エコライフ診断結果 まとめ パソコンによるエコライフ診断	黒澤 石丸 2名
6) 水環境部会	在来種メダカ外来種フロ リダマミズヨコエビの展示	メダカ・エコエビの 生体展示コーナー	水槽に水生生物展示 調査模様パネル	斎藤(昭) 古谷、杉崎
7) 大気環境部会	身近な環境を知ろう	道路の空気を測っ てみよう、生き物で わかる環境	パネル6枚、A3パンフ黄砂、 アサガオ見本 NO2分析体験	猪股、佐伯 花上、村上 佐藤、立石
8) 廃棄物・GO3 部会	神奈川のゴミ事情	環境社会は、分別 から	神奈川のゴミ事情	内藤
9) 地球っ子ひろば	リサイクル工作からはじま る環境学習	ストップ温暖化、僕 たち私たちの はじめの一步	活動記録 けんだま・ブーメラン・空飛ぶ種	斎藤(美) 山田、岩本 三川
10) 平塚をみかく会	落書きをなくそう	落書きをなくそう	落書きをなくそう	原園
11) サステナブル あさひ	地産地消とエコライフの 推進	スローライフって知 っていますか?	スローライフのパネル 生ゴミからの土作り展示	八木下 3・4名
12) かんきょう樂行 ふじさわ	環境条約マークから 世界の取組を理解する	知っていますか! 国と国とのお約束	ポスター展示	岩下
13) 磯子区環境を 考える会	ヨコハマは G30、イソゴは G50、暮らしのなかの、 かしこい省エネ	まちづくりは 地元学から	パネル:ごみ4、省エネ2 省エネ測定器、ごみ分別回収展示	清水 3名
14) アジェンダ 推進センター	マイアジェンダ登録の 推進	新アジェンダ21の 実践	展示:新アジェンダ関係・マイアジェン ダ現登録者の統計的分析,概要版	近藤
15) 本部			環境アニメ上映 燃料電池自動車展示・体験	北村 香川 大森、安部 鎌田

第 1 回 地域交流会

“ 清らかな自然、水と語ろう会 ” 報告

地域活動サポート部長 香川 興勝

近年、地球環境問題が大きくクローズアップされ、神奈川県でも「新アジェンダ 21 持続可能な社会の道しるべ」を採択して、その実現に向けての取り組みが活発化しています。

このような中、私たちはそれぞれの地域の特性に

応じて、その時代の変化にしたがって、そこに住む人々が意見をもち寄り、話し合い、実践を通して持続可能な社会を具体化していくことが大切と考えています。

国会・地域活動サポート部は、このような理念の

もとに第1回地域交流会を平成17年3月20日(日)平塚市民活動サポートセンターで開催しました。今回の交流会が契機となって、地域で積極的に活動している会員とこれから活動をはじめようとする方々が一体となって、地域の持続可能な社会が具現化されることを願っての開催でした。

今回は丹沢山系、酒匂川を中心に積極的に活動されている水環境部会の方々の協力をえて、その活動を中心とする交流会を開催した。その結果28名の方々が参加されました。その内訳は既存会員15名、12期生会員7名、会員外参加者6名という構成でした。さらにその地域別参加者数は横浜市8名、小田原市5名、平塚市4名、相模原市4名、秦野市2名、茅ヶ崎市2名、鎌倉・厚木・綾瀬市各1名という状態で、私たちが目標とした地域における交流会の目標の一つが達成されたと思える交流会でした。

また、講演、活動報告、助成金情報報告ともに、なごやかな雰囲気で行われ、参加者からの質問も多く楽しくて有意義な会であったのではないかと自問・自答しています。

交流会のあとでおこなった懇親会にも17名が参加され、既存会員はもちろん、12期生3人、地元非会員3名が入り、交流を深めました。なお、会員外参加者2名が賛助会員として入会されました。

ここで交流会の内容の紹介をしておきます。

講演：丹沢の川虫たち

神奈川県環境科学センター

石綿進一専門研究官

活動報告：丹沢水系・かわらの小石たち

斉藤昭一氏

山と語り合う 古谷敏夫氏

助成金情報：香川興勝

石綿先生は丹沢の上流～下流域での川虫たちの生

態と外来種の生態について話された。特に外来種については生態系に対する影響などは不明であるが、いずれも競争的な置換や食物の競合などが考えられ問題化することが考えられるので16・17年度丹沢総合調査の中でその分布を測定したいとのこと、水環境部会の活躍に期待するとのお話でした。

斉藤さんの報告は小石(片方の手で握れるサイズのものをいう)の成因に関わる水的作用についての大変面白い話しであったが、短時間だったのが残念でした。また何かの機会に講演していただけたらと思っています。

古谷さんは丹沢山系～酒匂川～相模湾にいたる自然破壊の原因と現状を9枚の写真でわかりやすく解説された。実働に基づいた報告で実感として伝わってくる生々しさが良かったと思います。

助成金情報は調査に基づく資料を配付させていただいた。

今後、この地域交流会を各地で続けて実施して行く予定です。この会が人の輪をひろげ、会員の活動を活性化していき、またK・リーダー会の活動の方向性を見いだしていく源泉になればと思っています。

皆様のご協力を宜敷くお願いいたします。



当リーダー会・規約第19条(協力金など) の施行要綱を制定

事務局 安丸 元一

京都議定書も発効され、持続可能な社会に向けて我々の環境学習、活動の場は益々広がって来ると思っています。従来は当会の斡旋で会員、又は会員グループが受託する事業など、又は当会が主催するイベントにおける物品、資料の販売に際し、「受託事業につ

いての役員会の申し合わせ」にもとづき、協力金を頂いておりましたが、平成17年2月14日の役員会で次頁の施行要綱を制定しましたのでご報告いたします。

今後とも皆様のご協力をお願いします。

[神奈川県環境学習リーダー会規約第 19 条(協力金など)]の施行要綱

1. 目的

本施行要綱はK・リーダー会の斡旋で会員、又は会員グループが受託した事業など、又は物品、資料の販売に対し、その受託金、及び売上金から当会に納める協力金について定める。

2. 協力金の対象

(1) 委託者から当会を通して当会の会員、又は会員グループの斡旋依頼があり、それぞれが委託者から直接受託した事業及び講師依頼など(以下「事業など」という)

(2) 当会が主催するイベントにおける物品、資料等の販売

3. 協力金対象の承認

対象事業の承認は役員会(緊急の場合はメール、ファックスによる)の付議事項とする。事務局は当会代表名で受託者に協力金を事前に文書で依頼する。

4. 協力金

(1) 事業など

2項(1)の「事業など」を受託した会員、又は会員グループは受託金の10%以上を当会に協力金として納める。

(2) 物品、資料の販売

2項(2)の物品、資料等を販売する売上金の10%以上を当会に協力金として納める。

(3) 例外事項

(1)項、(2)項を適用できない場合は当会代表、事務局長及び当該事業などの責任者又は販売責任者で協議し決定する。事務局長はこれを役員会に報告する。

5. 本施行要綱は平成 17 年 2 月 14 日から適用する。

6. その他

平成 15 年 9 月 8 日の「受託事業についての役員会の申し合わせ」は平成 17 年 2 月 14 日を以って廃止する。

県主催 環境教育・環境学習報告会 相次いで開催

K・リーダー会代表 近藤 作司

平成 16 年度神奈川県環境計画課が主催した環境教育・環境学習関係の報告会が、さる 2 月 5 日(土)、6 日(日)相次いで開催されました。共に K・リーダー会会報 40 号、41 号にてお知らせした「神奈川県からの環境教育支援事業」に参加したものです。

2 月 5 日は「NPO 等との連携による地球温暖化対策ワークショップ」であり、事業内容は会報 42 号に掲載されています。当日の報告会については本会

報の山田あや子さんの記事を参照下さい。なお報告会の全貌は、TVK 製作の CD-ROM に納められていますのでご興味のある方はお申し出下さい。(かながわからストップ!温暖化 地球温暖化対策・環境学習はいま)(連絡先:近藤作司、または北村博子、齋藤美代子)

2 月 6 日は「グリーン教育支援制度(仮称)試行実施に係る環境教育支援業務」であり事業内容は会

報 42 号に掲載されています。

2月5日の報告会は、報告主体はWS実施団体に児童・生徒・先生も参加するという形でしたが、6日は教育支援を受けた学校が主体の報告会でした。これは会報40号でお知らせしたように、グリーン教育支援制度を確立するための試行実施だったからです。この制度は、学校における環境教育・実践活動を推進し、環境配慮商品やサービスを普及し、家庭におけるグリーン購入を普及することを目的としています。そしてマイアジェンダに登録し、環境ラベルやグリーン購入に理解を深める環境教育を実施し、環境ラベルを収集する県内小・中学校に対してその学校が実施しようとする環境教育や環境保全活動等に必要な支援を行うものです。

今回のモデル校は昨年実施した「子どもたちからのメッセージ」事業参加校を中心に小学校11校、中学校2校でした。

K・リーダー会は茅ヶ崎市立梅田小学校、川崎市立小田小学校、平塚市立みずほ小学校の3校で環境学習を実施しました。

当日の報告会は、第1部、石黒環境計画課長の挨拶で始まり、グリーン教育支援システム概要説明の後、各モデル校の取り組み発表がありました。児童・生徒の発表は各校とも色々工夫がなされよく勉強しているところが見て取れました。その中でNPO等が実施した環境関係の学習が出てくると、やって良かったという実感がわきました。石黒課長のお話ですと、17年度は仮称が取れて正式制度になるとの事でした。当会も更に良いメニューを用意しこの事業に積極的に参加したいものです。

第2部は、「グリーン教育・環境教育ワークショップ」と児童・生徒による「環境体験屋台村」が行われました。

「グリーン教育・環境教育ワークショップ」は、先生、保護者、NPO等が参加し、6グループに分かれて行われました。先生方の苦心談、母親からの思いや希望、地域による格差の違いと教育の画一性などが判り参考になりました。私たちとしては、もっとも現場での接触や先生方やお母さんとの話し合いを密にして、児童・生徒への「伝え」を工夫していきたいものです。

環境学習報告会に参加して

事務局長 山田 あや子

県環境計画課の平成16年度の事業として行った「地球温暖化防止対策ワークショップ」の報告会が、2月5日(土)横浜市旭区文化センターで行われました。当会からは、昨年12月に厚木市立上依知小学校4年1組と2組で実施したワークショップの報告を行いました。

この事業は、学校での環境教育実績があるNPO等の団体が、学校との調整を踏まえて事業提案を行い、県から委託を受けて実施されたもので、報告会では、八つの団体が県内の15の小学校、中学校で実施した内容や子供たちが地球温暖化防止の対策について考え、家庭や学校での取り組みを発表しました。

当日は子供たちも一緒に報告できるとのことで、会場には少々緊張した小学生や中学生、また、子供たちに良い体験をさせたいと一生懸命の保護者や学校の先生など、大勢の人の熱気が溢れておりました。残念ながら上依知小学校からは参加してもらうことは出来ませんでした。どの学校もとても立派に発表していました。

また、発表の中には、K・リーダー会員が主宰の2つの団体からの報告もありました。

ワークショップを実施した学年や様々な状況もあり、それぞれの学校での取り組みを単純に比較することはできませんが、学校によっては環境に対する意識を持って学習の中で継続的な取り組みをし、今回の事業でより深い取り組みに展開することができた学校や、私たちが実施した上依知小学校のように、新たな取り組みのきっかけになった学校など、温暖化防止に対する意識とその状況は、学校によって様々なものがありました。

多くの方が当たり前前に環境に配慮した生活をする事が出来るようになるには、まだまだ、長い時間かかりそうです。今回を機に私も皆さんと共に、地道な取り組みをして行こうと思っております。

なお、今回の報告会の様子は、2月26日(土)にテレビ神奈川「神奈川からストップ温暖化」の中で紹介されました。

部会活動

エネルギー部会

部会長 北村 博子

エネルギー部会 16 年度活動総括と 17 年度活動方針

平成 17 年 2 月 16 日、COP3 で採択された「京都議定書」がついに発効した。不備はあっても、法的に取り決めが締結されたのであるから、それに伴う国・神奈川県の方針、其れは其れとして、環境保全活動団体の活動のあり方も、それなりの具体的に実効性ある効果を結果として求められることになる。持続可能な地球環境を遺していくための環境保全活動は、任意団体といえども、「環境団体でさえあの程度のことであるのだから」等とならぬよう自戒し、進む方向を間違えないようにしたい。

1. 平成 16 年度活動報告

1. 「エネルギー少消費型ライフスタイル」の率先実行とその普及・啓発・推進活動を継続推進。

2. 6 月 4 日環境展における普及啓発

1) パネル展示

K 家の環境家計簿記録の推移

我が家の「省エネ」チャレンジ実践と効果

2002 年と 1986 年の生活の CO₂ 排出量比較

一人ひとりの温暖化対策

暮らしの CO₂

家電品省エネ性能・保有率

温暖化対策：自動車「車は大食い」

世界の CO₂ 排出量

暮らしをリフォームしてみませんか：自販機

暮らしをリフォームしてみませんか：エネルギー

暮らしをリフォームしてみませんか：あらゆる消費が CO₂ を誘発しています

新エネルギー

2) 体験・実験

温暖化説明実験

エコカルタ取り

エネルギー体験・実験

照明の電力消費量比較

燃料電池自動車

おもしろ電池色々

3. 体験学習活動内容の充実拡大（森林・川・施設見学）

横浜市汚泥処理場見学実施：7 月 6 日実施

4. 普及ツールの新教材開発・作製。現有教材改定。未着手

5. 環境家計簿・記録実践と啓発（「ライフスタイル

見直し」から「ライフスタイル変換」へ向けて。）

エネルギー消費の実態記録と削減に向けて継続実施。

6. リーダー会事業実施・イベント参加者の増員を図る。

1) 川崎市立小田小学校平成 16 年 11 月 30 日

グリーン教育支援制度環境教育

「クリーンエネルギー体験教育」

DVD「地球温暖化」視聴

「クリーンエネルギーについて」ppt

・クリーンエネルギーにはどんなものがある

ソーラークッカー製作

自然エネルギー実験・体験

7. 各種行政・自治体・学校・KERC からの依頼に積極的に対応・参加

1) 子ども環境体験教室

【節電タップを作ろう】：教室名の再検討

DVD「地球温暖化」視聴

電気の説明・実験・体験

燃料電池の説明

燃料電池自動車試乗

電気の測定 待機電力・消費電力比較実験

節電タップ製作

エコカルタ取り

「省エネカレンダー」 省エネ行動目標 各参加者の目標設定記入

「省エネの環」作成：地域への普及効果

2) 小田原市エコアップリーダー養成講座講師

8. 各活動の数値目標の明確化。

一部達成。

9. 自然エネルギー啓発

子ども環境体験教室において、太陽光発電、燃料電池、風力発電、太陽熱利用の実験を通して体験学習を実施。

2. 17 年度活動方針

1. 部会員のスキルアップ

2. 地域における部会員の活動実績の共有と活動支援

3. 部会員家庭におけるエネルギー消費量点検、データ蓄積と分析、実践活動での活用

4. リーダー会事業への積極的な参加と事業実施

活動報告（1 月～3 月）

1 月部会：平成 17 年 1 月 13：00～15：00

参加者：児玉、大森、依田、吉田、矢尾、井上、北村

1) エネルギー消費点検：電力・ガスについて部会員で記録をつけ、データを蓄積・分析、活動で事例として活用することを確認。

2) ミニ講座

・神奈川県喘息の実態

- ・ Kさん家の電気使用量の推移

3) ミニ講座

- ・ 自販機の電気消費量 (最新版)
- ・ 自販機 217KWH/月 (平均家庭の約 70%)

2 月部会：平成 17 年 2 月 25 日 13：30～15：00

参加者：吉川、大森、依田、小田、安藤、香川、吉田、北村

1) 6 月環境展：展示テーマ、展示内容、キャッチフレーズ、コピーを検討決定。

来場者が「温暖化対策」の必要性を理解し、積極的に対策行動の実践へ誘導する展示内容に。

- ・ テーマ：エネルギーの過去・現在・未来を検討
- ・ 過去の生活実感をイメージする
- ・ 30 年前と現在の生活とでは、質・量で異なる
- ・ CO₂削減が、惨めな生活にならないように
- ・ ヨーロッパの少エネルギー且つ優雅な生活達成をデータで説明できないか
- ・ 30 年後の生活を二極化の方向で提示可能か
- ・ 京都議定書発効年をアピールする必要がある
- ・ 一般の危機意識が少ないことへの対策が課題

3 月部会：平成 17 年 3 月 17 日 13：00～15：00

参加者：大森、依田、小田、安藤、吉田、北村

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会活動方針

環境科学センター及び環境学習リーダー会のご協力と支援を得て、ケナフ部会の活動も 7 年目に入りました。環境科学センターの隣地を本年も利用させて頂く予定で準備を進めています。今後とも地球環境の改善と言う共通の目標に貢献出来ればと決意を新たにしています。

本年度も昨年同様、環境学習リーダーとして各々の地元でリーダーとなり、地域同士の連携をはかり、環境科学センターを利用させて頂き、更なる研修を図っていきたく考えています。

【平成 16 年度の活動総括】

昨年度は下記の方針で活動して参りました

1. 各地で催す展示会に積極的に参加します。
6 月のリーダー会主催の環境展、環境科学センター主催の「子ども環境体験教室」に参加致しました。
2. 各地でのケナフ紙漉きに協力していきます。
横浜市、藤沢市、相模原市、等で実施致しました。
3. 地域でのケナフ部会の結成に協力していきます。
各自地元で活動されていることは、逐次会報でお知らせしているところです。
4. 更なる研究活動及び講演会を開催します。
本年は釜野神奈川大学名誉教授の紹介で「なかとみ和紙の里」(山梨県南巨摩郡中富町西島 383)

1) 環境展について

- ・ 展示テーマ「未来は、私たちの対応に掛かっている」
- ・ 展示幕キャッチフレーズ「暮らしとエネルギーの過去・現在・未来」

・ キャッチコピー「未来は、ばら色？」

展示のコンセプト：地球温暖化防止

- ・ 参加者が実感出来る展示内容・体験項目にする
- ・ 参加者特に、子どもに興味を持って貰うため、クイズ形式を利用、内容を理解して貰う
- ・ 展示項目：昔の生活、未来予測等
- ・ 体験項目：エコカルタ取り、双六、電気実験、待機電力測定、自然エネルギー体験等

具体的展示テーマ

- ・ 自販機・自動車・家庭電化機器等

活動予定(4月～6月)

1. 部会：開催場所：かながわ県民センター

4 月 10 日(日) 13：30～17：00 705 号室

5 月 8 日(日) 13：30～17：00 708 号室

6 月 12 日(日) 13：30～17：00 未定

の紙工場を見学して、紙漉等の情報を収集して、更なる研修をしてきました。

平成 16 年度は、環境科学センターの圃場でのケナフが気候のせい、芽が出ず何度も種をまき直しました。自然の厳しさを感じました。花も殆ど咲かず、種も取れない状態でした。この原因が気候の為か、連作のせいかわかりないので、来年はこの点を検証したいと思っています。

なお、紙漉技術は大変な向上が見られ、今後は大判の紙に挑戦したいと思っています。

【平成 17 年度方針】

平成 16 年度に引き続き、

1. 環境科学センターの圃場を利用した、ケナフの栽培研究及びケナフ教室を開催の際の材料供給をする。
また、耕耘機を利用して土を細かくする事により、どのようになるか観察したいと思います。
2. 環境学習リーダー会、環境科学センター主催のイベントに協力して行く 6 月の環境展、環境科学センター主催の「子ども環境体験教室」にも積極的に協力していきます。
3. 各地でのケナフ紙漉き等の協力要請があれば協力していきます。今後、学校等で要望が増えると思われるので出来るだけ、協力出来るよう資料、道具等を揃えて行きます。
4. 地域でのケナフ部会の結成に協力していきます。
環境学習リーダーが各地で開催される場合には

協力していきます。

昨年は環境学習リーダーの要請で協力を頼まれましたが、今後とも応えていきます。

5. 更なる研究活動及び講演会を開催します。

昨年は工場見学、それ以前は講演会を実施しましたが本年度も実施する予定です。

なお、お願いですが、ケナフ部会の活動が増していますが、それをこなすには部員が少なすぎますので、興味のある方が居られましたら是非入会してください。

活動報告と予定(2月~6月)

ケナフ部会員が携さわった2005年2月~3月の活動及び4月~6月の予定について報告します。

1. ケナフ部会定例会

1/23 ケナフ部会定例会

- ・次年度の方針について検討。
過去6年間の活動内容をまとめ、
 - 1) 地域において、環境教材として活用して貰うように働きかける。
 - 2) 学校での環境学習に活用してもらうようにPR活動する。
 - 3) 部員の増強に努める

を決めました。

- ・市民環境活動報告会ポスターセッションについての打ち合わせ
- ・環境科学センターで不要になった太陽パネルをケナフ部会活動と結び付けられないかとの意見が出て、応用方法を検討することになった

2/13 ケナフ部会定例会

- ・2/19 市民環境活動報告会ポスターセッション用パネル作成
- ・太陽パネルの利用方法として、太陽パネルから100Vの出力を取り出すデモ機を作る事にする。

3/27 ケナフ部会定例会

- ・畑お越しを実施、環境科学センター野崎さんの関係で耕耘機を手配して貰ったお陰で、約50平方メートルを耕運してマルチを張る。
- ・環境科学センター主催「こども環境体験教室」の日程について打ち合わせ
- ・太陽パネルデモ機についての説明



畑お越し



太陽パネルデモ機(上面から撮影)

2. この期間活動報告(ケナフ栽培以外)

- ・2/3 横浜市立(栄区)千秀小学校渡辺美江先生から紙漉きをしたいので指導して欲しいとの依頼あり、4年生35名に紙漉き体験を実施する。小川さん、荒谷が参加、後日、千秀小学校渡辺先生より、生徒の感想文が届けられました。大変感謝しています。



小川さん紙漉の漉き方の説明



完成した紙、色々な押し葉が出来ました

3. 今後の予定

- 4/21 定例会 ケナフの種まき

自然環境部会

部会長 岩田 寿郎

2004年活動を省みて

冒頭、皆様のご期待に応えられずお詫び致します。5月の総会直後は、いくつかの計画を考えましたが、一方で、部員名簿も存在しない中でのスタートでもありました。その中で、地域活動サポート部と共催の“真鶴半島を訪ねる”を行ったのが、部会として唯一の活動でした。

昨秋、12期の養成講座修了の皆様のなかから、新

~~~~~

## 大気環境部会

部会長 猪股 満智子

平成16年度活動総括

発足して5年目、部会運営をより有意義に進めるため環境モニタリングの水質系を分離独立し、大気及び自然系モニタリング活動を充実させるべく大気環境部会として再スタートした1年

・部会員22名の増員となり、効率のよい部会運営、調査・学習活動が可能となった。その結果、大気、自然系（ツバメ）ともに調査地点数は調査開始以来いちばん増え、自然系（タンポポ、ジョロウグモ）に関しては前年より調査参加者、地点数共に減となった。都市化とともに見つかりにくい地域、逆に個体数が多すぎ把握しがたくやる気になれないということもあるが、KERECの開発・手法はこういった推移を見守り関心づけるという意味からも、部会員はもちろん、K・リーダー会員の調査参加、地域でのリーダーシップが望まれる。

NO<sub>2</sub> 調査実績

6月（有効測定数264地点）、12月（同じく318地点）の年2回実施

今年度は偶然2回とも夏場の不安定・逆転層、冬場の安定・逆転層現象に遭遇

自然系

タンポポ（737地点）、ツバメ（130地点）、ジョロウグモ（193地点）

年度当初、目標に掲げた「1人にお任せから大勢が係わる」は、再スタート時に全員への意識徹底が難しくマップデータ化に関して模索はできたが到達点まで達し得なかった。

・スキルアップ

「化学物質と大気汚染」、「NO<sub>2</sub>測定評価法」、「新地図入力講習」2回、「何故他の測定方式を採用できな

入会希望の方々が数名おられ、今後について話し合いを持つべく日程調整を致しましたが、不調となり、未開であります。

自然環境部会は、自然と人間生活とのバランスを考えることだと何時も考えています。つまり、土、水、空気、太陽光、野生生物と我々との調和と換言できると思います。一方、当面は、特定外来生物被害防止法を見据えつつ、神奈川県内における、それら生物の拡散とその対策を考えることが肝要なことだと考えています。

今後続く皆様のご活躍を祈念します。

いかに、「子ども環境体験教室、県グリーン教育支援」講師

・その他

親子で楽しむ環境展、横浜カーフリーディ、地球温暖化防止の集い、市民環境活動報告会ポスターセッションに参加

平成17年度活動方針

大気汚染測定は大気環境保全のみならず地球温暖化防止の点からも欠かすことはできない。また光化学スモッグは人体よりも植物に感受性の強いものが多く、植物、森林等への影響が心配されている。そういったことから、部会ではNO<sub>2</sub>測定のほかにアサガオやウメノキゴケ類等を初めとする生物観察調査、それを手法とした環境教育・学習を積極的に実施していく。

「PM・NO<sub>x</sub>法」施行1年経過後、国道246号厚木国設交通環境測定所におけるディーゼル排気微粒子（PM）の低減傾向が発表された。また部会一斉測定日と同時間帯における県下常時監視局NO<sub>2</sub>値も沈静化傾向であった。測定点増と移設に関して、行政はこれ以上の常時監視局設置は財政上困難という。そこで行政が把握できない所を市民自らが身近に定点観測、推移を監視していくことは、環境学習のみならず市民への啓発・保全活動につながる意義あるものである。

調査・測定活動は部会員のみならず、部会員の所属地元団体の協力や子どもグループへと徐々に広がっている。人と人のつながりによる調査データネットワーク化でさらなるひろがり、皆ですすめる「身近な環境調査」へとめざしたいと考える。ぜひK・リーダー会員のリーダーシップをお願いしたい。「環境マップはリーダーの地域活動の証し！」になるよう。部会はそのために新データ化を模索します。

（別紙ちらしをご参照ください）

## 活動報告(1月~3月)

### 定例部会

1月29日(土)10~12時

NPOセンター大船 出席12名

12月度NO<sub>2</sub>測定結果の評価・検討

- ・11月末のKERC業績発表会において国道246号厚木国設交通環境測定所におけるディーゼル排気微粒子(DEP・PM)の低減傾向を発表。
- ・配布本数324本 有効測定本数(地点)318本
- ・冬場の大気の安定性(上空の気温が低く排気ガスが上昇できない逆転層現象)と暖をとるためのアイドリングが影響してか、測定濃度は高めの結果となった。ちなみに常時監視局濃度を比較したら基準値61ppb以上は皆無であった。

新地図入力方式の検討は3月の「GIS講習」経験後に再度検討。

3月12日(土)13:30~16:50

NPOセンター大船 出席9名

平成16年度活動総括と17年度活動方針案、次年度担当者の検討等。

環境展出展の準備検討。

### その他の活動

2月6日(日)13~17時

「県グリーン教育支援制度(試行)」事業報告会参加

2月19日(土)14~15時

「市民環境活動報告会」ポスターセッションに出展説明

~~~~~

水環境部会

部会長 齋藤 昭一

平成16年度の活動報告

4月富士水系、鮎沢川の調査始まる。古谷氏の綿密なる事前調査にもとづいた計画に乗り行動する。谷峨の上流、秘境ともいえるようか、・・・本州の硬い地盤、足柄層群の岩盤に移動してきた丹沢層群の柔らかい岩盤の衝突して乗り上げている姿、太古の歴史の中でおこなわれた地殻移動のダイナミックな活動、まさに生きている地球の証を目の当りにして大感動した記憶がいまに残っている。以降地理的、地形的悪条件とも闘い、克服しながら上流に向かって調査を進めた。

酒匂川では前年にまさるフロリダマミズ、ヨコエビの分布図の作成が進んだ。活動計画の120%の成果を得ることができたが気候が全体的に猛暑のせいであったためか参加者が減少していったのが気がか

活動予定(4月~6月)

環境マップは地域活動の証し!

部会員以外の方の調査参加 大歓迎

A 3月~5月末 タンポポ調査

〆切6月10日必着

見つけた地点の住所、地域地図に印をつけて送ってください

セイヨウタンポポ (そうほう片が中途半端に反り返ったものは交雑種で、の類として記入)
カントウタンポポ
その他のタンポポ (シロバナタンポポ等も)

個体数密生の場合は約総本数も記入

B 6月2日夕~3日夕 NO₂ 24時間測定

捕集管洗浄 5月14日(土)10時~

KERC 実験室

部会とNO₂測定準備(ろ紙装着) 配布

5月23日(月)13:30~16:30

KERC 実験室

NO₂分析 6月10日(金)13:30~

KERC 実験室

C 6月4日(土)9~17時 第4回「環境展」出展

A、B共に、調査参加していただける方、ご遠慮なく測定本数等をご連絡ください

〒248-0027 鎌倉市笛田 2-33-3 猪股満智子

tel&fax 0467-32-6858

りであった。今年は日程、地理的条件をさらに考慮して調査を進めたい。

平成17年度の活動方針

1. 丹沢水系、河内川の調査(丹沢湖下)
2. 酒匂川を中心とした外来種の継続調査
3. 近郷の河川において情報、状況に応じてスポット、スクランブル調査を取り入れる
4. 上記項目の探水活動とともに、丹沢島の歴史を「かわらの小石、岩石」等をとおして地球の生い立ちのさわり部分を語り合っていく

活動報告(1月~3月)

2月、第2回部会開く、環境科学センター、議題

- | | |
|-------------------|----|
| 1. 今年の活動報告 | 全員 |
| 2. 新年度の活動計画 | 古谷 |
| 3. 6月環境展に対する取り組み方 | 杉崎 |
| 4. 3月20日地域交流会 | 香川 |

5. まとめ（新役員、新規会員の紹介他）齋藤
 3月13日 学校法人明德学園、相陽中高等学校、
 第4回シンポジウム「酒匂川水系の環境を考
 える会」にて「足柄平野の絶滅危惧種の現状」を
 発表、杉崎茂氏
 3月20日 平塚市市民サポートセンターにて、
 第1回地域交流会に参加
- | | |
|------------------|----|
| 1. かわむしたちの仲間達 | 石綿 |
| 2. 丹沢水系、かわらの小石たち | 齋藤 |
| 3. 丹沢山の自然 | 古谷 |

第1部終わって会場を移して交流懇談会、自己紹介、それぞれの特徴ある紹介に拍手、質問会等、活発に意見交換をもって終了した。

活動予定（4月～5月）

- 4月17日（日）河内川（道の駅、キャンプ場下）
 5月22日（日）酒匂川右岸支流、用水調査
 いずれも9時松田駅集合

グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

1. 目的

当部会は神奈川県環境科学センターの環境学習リーダー養成講座・環境実践者養成講座で習得した知見を地域で生かす為に活動を行う。特に自分達の生活が買い物を通じてさまざまな地球環境問題と密接につながっている事を知ってもらおう活動を展開する。

2. 活動方針

当部会が主要テーマとして実践することは、私たちが買い物をするとき、商品が店頭にならぶまでの背景や使用中・使用後の環境への影響について考えて自ら実行できるように意識に変革をはかる為の啓発活動を行う。

環境に配慮した買い物が、環境・健康・安心・安全面で自分にメリットがあること、自分の判断で商品を選択することの重要性について啓発活動を行う。

3. 活動計画

6月の環境展へ参加

テーマ：環境に優しい買い物を！グリーンマークの啓発を実施

17年9月までに、どうしたら環境に配慮した買い物が可能かについて啓発活動のために下記プログラムを作成し講座を実施する。

・神奈川県環境学習リーダー会版の「買い物ゲーム」の作成

「買い物ゲーム」：いくつかの商品について、どれが環境にいいかを考えながら商品を選び、選んだ理由をグループで考えるWSシステム。

18年3月までに、環境に配慮した買い物が社会や企業に影響を与える環境活動だと知る人を増加させ、大きな夢は流通商品市場を変化させるために、「スーパーとタイアップ」について調査活動をおこない環境に配慮した製品の品揃え展開を中心に目指す。

グリーン事業で神奈川県・市町村と協働体制作りのために部会員の学びを強化する。

廃棄物・GO3部会

部会長 原園 信夫

これまで廃棄物・リサイクル部会が神奈川県環境学習リーダー会の部会の一つとして活動していましたが、同部会の組織縮退・廃部に伴い、同じく循環型社会の構築を目指した活動を行ってきた「GO3の会」がこれを引き継ぎ、新たにK・リーダー会の部会として活動を展開することになりました。

以下に新部会「廃棄物・GO3部会」の方針並びに平成17年度の事業計画を紹介いたします。

1. 活動方針

- 1) 今までの「GO3の会」の活動である神奈川県37市町村のごみ分別カレンダーの分析を

継続して行う。

2) 環境学習リーダー会のメンバーにも加わってもらい、積極的なごみ対策を行政、事業者、市民に働きかけていく。

3) 環境学習としての「ごみ減量」の学校プログラムを環境学習リーダー会として作成し各学校に働きかけていく。

4) その学習プログラムをクリーンジャパンセンターに登録し活用の拡大を図る。

5) 体制

部会長 原園信夫

部会担当役員（候補） 狩野光子

なお、これまでの「GO3の会」の活動につきましては、「会員の広場」のページに詳細を載せております。

2. 17年度事業計画

- 1) 4月～5月 県内37市町村の分別カレンダー収集。
- 2) 県内37市町村のごみ分別カレンダーの分析。
- 3) 環境学習としての
【GO3のごみ減量】テキストブック、
【GO3のお買い物ルールブック】
を環境学習リーダー会として作成し、カレンダーから見えてくるゴミ問題を他市などと比較しな

- がら身近なゴミを通して各学校で環境にやさしい生活を働きかけていくために今年度は分かりやすいテキスト作成に取り組む。
- 4) その学習プログラムをクリーンジャパンセンターに登録し活用の拡大を図る。
- 5) 環境学習リーダー会のメンバーにも加わってもらい、積極的なごみ対策を行政、事業者、市民に働きかけていく。

地域活動サポート部

部長 香川 興勝

1. 地域における活動団体、環境行事の調査と人的交流

県下各地域における環境保護活動団体・グループ12のイベントおよび活動に参加して、各グループの活動目的、関連協働機関、メンバーとの交流・情報交換、抱えている問題点の把握、K・リーダー会としての支援内容の把握等を理解するための活動を行った。

17年も継続して実施し、今後のネットワーク化およびK・リーダー会活躍の場の把握の資料として行く予定です。

2. 地域活動サポート部主催のアンケートの実施

前部長・木本さんの後を受けて平成16年6月～7月に会員全員へのアンケートを実施しました。アンケート回答率は約30%とやや低かったが有力な意見を数多くいただいた。今後の地域活動サポート部の活動に生かしていきたいと思っている。特に会員が所属する32のグループの現在の問題点・課題である、

(1) 活動する会員の不足

(2) 活動資金の不足

は重要視して16年度も活動してきたが、17年度

も継続して取り組んでいく予定です。

3. 施設見学会の主催

16年度施設見学会を実施した。小田原東郵便局(環境配慮型郵便局)へ18名で訪問した。その詳細は会報No.41で報告した。

17年度も継続して地域活動サポート部の年間行事の一つとして、会員の勉強・情報収集・人的交流等を目的に実施していく予定です。

4. 第1回地域活動交流会の実施

平成17年3月20日に実施した。参加者28名(既存会員15名、12期会員7名、非会員6名)の出席と、その人的構成および交流会内容・雰囲気、懇親会内容から目的の一つを達成できたと自問自答している。

17年度も実施して本会の隆盛のための基盤をつくっていく予定です。しかし、年度の終わりに近い3月20日実施し、関係者にご迷惑をかけたことを後悔している、来年度への反省材料です。

5. 助成金情報の調査と提供

主として助成金情報機関5ヶ所についての調査をまとめて第1回地域交流会で報告した。

詳細は配布した資料を参考にさせていただきたい。これを基盤にして、今後会員の声を参考にし、改訂・充実をはかり、会員のたよりになる助成金情報を提供していく予定です。

会員の広場

「GO3の会」の紹介

GO3の会 狩野 光子

廃棄物・GO3部会の発足に際して、GO3の会のこれまでの活動を紹介させていただきます。

GO3の目的

『持続可能な循環型社会構築に貢献していく』

神奈川県下の分別カレンダーを通して、収集体

制とゴミの排出量、資源化内容、などを調査、分析、考察を重ね、市民が考えるシステムを行政、市民、企業、政治家などにアピールしていく。

市民にゴミを減らすための実践的活動をテキスト作成しながら広めて行く。

GO3の経歴

1) 平成11年9月～11月

環境学習リーダー養成講座(7期42名参加):

11日間にわたる研修の最終日、実技講座ワークショップの研修中、県下のごみを少しでも減らしたい!という仲間6名で『GO3の会』を発足

させた。

- 2) 平成 12 年 2 月 19 日
第 6 回市民環境活動報告会で発表：
『ごみを減らすため一人ひとりが出来ること』
発表者 狩野光子
- 3) 平成 13 年 2 月 24 日
第 7 回市民環境活動報告会で発表：
『37 市町村ゴミ分別カレンダーから見えるもの』 発表者 原園信夫
- 4) 平成 14 年 2 月 16 日
第 8 回市民環境活動報告会で発表：
『37 市町村分別カレンダーから見えてくるもの、第 2 報』 発表者 秋吉齊
～有害物ゴミの処理について～
- 5) 平成 14 年 6 月 9 日
第 1 回 K・リーダー会主催：親子で楽しむ環境展に参加：
『37 市町村の分別カレンダー展示』
～蛍光灯を有害物と表示してくれている市町村にハープのリース～
- 6) 平成 15 年 6 月 8 日
第 2 回 親子で楽しむ環境展に参加：
(37 市町村ゴミ処理の実態発表)
- 7) 平成 15 年 8 月度
環境科学センターの子供環境体験教室を担当：
(ソーラークッカー & 4 R 実践)
- 8) 平成 16 年 6 月 13 日

第 3 回親子で楽しむ環境展に参加：
(37 市町村の蛍光灯の処理実態を展示)

- 9) 平成 16 年度
環境科学センターの子供環境体験教室を担当：
(ソーラークッカー & 4 R の実践)
- 10) 平成 16 年 12 月 28 日～17 年 1 月 10 日
あつぎ環境市民の会主催『みんなの環境展』に参加
(37 市町村、他県のカレンダー、5 年間の分析データ展示)

G O 3 の作成資料

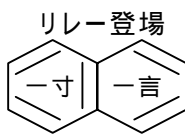
- 1) 分別識別マーク表作成 (担当 狩野光子)
リーダー会員全員に配布
- 2) 楽しいリサイクル教室 ごみ探検隊
ごみの行方、土の中の法則 = テキスト作成
- 3) ソーラークッカーを作ろう！
簡易パラボラ型ソーラークッカー「あさがお」
の作り方、4 R の実践 = テキスト作成
- 4) ゲームシート
君は地球を守れるか？ YES、NO、ゲーム資料作成

情報紙【環】の発行

2002 年 7 月 1 日	1 号
2003 年 1 月 1 日	2 号
2003 年 11 月 1 日	3 号
2004 年 6 月 13 日	4 号

「災害被災地」

田口 汎 (逗子市)



ある旅の記録

台風・豪雨そして震災。昨秋は列島内外が自然災害に見舞われた稀有な年として記憶に刻まれた。かつて現役時代の宮脇昭、梅原猛、竹内均さんら環境派との出逢いが、わたしの活動が国土の保全に向かったのは自然の成り行きでもあった。

昨秋の台風・豪雨・震災はわたしを表題の地域への旅に誘ってくれた。報道されたようにこれは「自然災害」であろうか、それとも内心危惧していた人為的改変による「国土崩壊」の先触れなのか？ 森林土壌の崩壊はあるのかないのか？ 課題は尽きなかった。

丹後半島 天橋立

丹後半島をディーゼル特急は、その名が恥ずかしいほどゆっくりと走る。川の兩岸には河畔林がなぎ倒されている。やはり豪雨は森林土壌の崩壊を招いていた。国土の森林率は世界で 2 番目の 67 パーセ

ント。だがその 7 割を公有林が占める。林野行政は、木材生産から抜け出せず、依然として経済的にペイしがたい針葉樹スギ・ヒノキ主体である。

想像したとり、経路の山の斜面には土石流が起こった痕跡が、無残な表情で生々しく残されていた。

名勝天橋立の松並木は 200 本の倒壊をみたという。海岸の砂洲上では浅根のクロマツは一たまりもなかった。籠(この)神社の社叢の倒木 50 本ほど一見して脅威を感じた。マツ・スギに混じって深根性のシラカシが 2 本ある。

被害は常緑広葉樹に及んでいた。ここから推定できるのは、神社林の深い土壌まで流出したことである。

山陰 中国山地 山陽路

山陰に入り、大山の北麓はバスで行く。大山の斜面には自然植生のシイ・カシ類が混生して、タタラ製鉄名残のアカマツは、海岸沿いに限定されつつある。中国山地には、竹が相当量混入している。おそらく地域的人為的行為の結果だろう。

伝えられたように、巖島神社の被害は甚大であっ

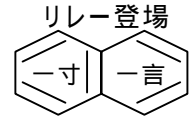
た。この被害は、神社立地の人為的な改変から当然である。以前から指摘されているが、それに見合う住民の保全努力がされてきている。その意味では、前回訪問したときの高潮被害を上回ってはいるが、次第に回復していきだろう。それが再生可能な木造建築の特長なのであるから・・・。

この旅は国土の森林での保水力が脆弱化していることを教えてくれた。森林の「透水性」、「貯水能」を森林水文学的に再考しなければなるまい。詳しくは <http://brahma.zushi.org> 「オルト・ヘテロな環境」へ。

次のランナーは猪股満智子さん(1期)です。

子どもたちとの“体験”のすばらしさ

すかっ子セミナー2004「エコニコ・サークル」



野崎 章子(横須賀市)

横須賀市の小中学生の土曜体験プログラム『すかっ子セミナー』は、2004年で3年目を迎え、市内26の小中学校から70名を超える参加者がありました。19の市民団体が「生活環境系」「自然系」5コース、「国際理解」「福祉」「歴史」の計8コースのプログラムを企画し、6ヶ月間、毎月1回の体験活動を実施したのです。

生活環境系コースは名付けて“エコニコ・サークル”、参加した11人のすかっ子と、私を含めて4人のサポーター(神奈川県環境学習リーダー、かながわ環境カウンセラー、横須賀アイクル・マイスター)が、5月から市内の山や海、畑や街中で活動を開始しました。

10月までに全6回の活動を終え、11月、市の自然人文博物館の講座室を会場に、全コースの参加者とサポーターが集まって合同発表会が開かれました。

「ドライアイスを使って温暖化の実験をした」「畑にサツマイモの苗を植え、いろんなゴミも埋めた」「リサイクル・プラザ・アイクルの見学でゴミに



詳しくなった」「牛乳パックでリサイクル葉書を作った」「廃油を使った石鹸の作り方」「東京ガス環境エネルギー館の見学、楽しかった」「畑に埋めておいたゴミ、5ヶ月間で土になって消えたものは? 残ったものは?」「できた野菜でエコクッキング、みんなで作ったすいとん、7杯もお代わりした」などなど。合同発表会で自分たちの体験を発表するエコニコ・サークルの子どもたち。目が輝いて、自信に満ちた力づよい声も弾んでいました。子どもたちは、ほとんど自分達だけの力で発表内容をまとめあげていたのです。これは私たちサポーターにとっても“体験”から環境を学ぶことの力強さ、楽しさ、頼もしさをあらためて実感する場となりました。

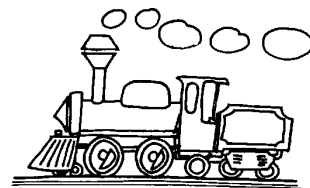
すかっ子とともに更に新しい“体験”を重ねたいと心躍らせながら、エコニコ・サークルの2005年活動メニューを吟味している、今日この頃の私です。つぎは依田毅さん(11期)にご登場いただきます。

編集後記

今週になってやっと桜が咲きはじめ、この会報が出る頃は満開。人が咲きはじめて花や新緑を求め、外へ出だしました。家の中は相変わらず、不要な待機電力が動いています。

2月16日京都議定書がやっと発効されました。増え続ける民生部門の省エネを推進するために、今後ますます環境学習リーダー会の役割は大きいと思います。そして迫り来る関東大震災にも備えを忘れずに。

原園信夫



発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 近藤 作司

編集人： 広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日： 2005年4月10日